2025年度 研究会活動支援制度 成果報告書　社会学リーディング研究会

社会学的理論・視角の深化と研究実践への展開

研究会メンバー：竹松未結希（先端研）、峯桃香（社研）
大橋一輝（先端研）、加藤このみ（先端研）

研究会の目的：異なる社会問題を研究対象とする院生が集まり、社会学理論および質的調査を手法とする文献の精読を通じて、理論的視角を深化させるとともに、各自の博士論文・学会発表へ接続する

本研究会は、社会学を専攻しつつも、社会学の異なる分野、異なる社会問題を研究対象とする院生が集まり、社会学の基礎的で新しい文献を読み、社会学の視点、理論についての学びを深めるとともに、各自の研究やフィールドワーク実践に活かすことをめざす。

活動内容： ３か月に1回の頻度で読書会を主とする研究会を実施する。自身の博士論文・査読論文といった論文の執筆、学会報告や今後の研究計画の構想に活用し、読書会によって得られた社会学の視角、理論を自身のフィールドワークの場で実践できるようになることをめざす。

開催内容：今年度は、４回の研究会を実施した。

第1回：アリス・ゴフマン，2021，『逃亡者の社会学』亜紀書房.
第2回：東園子，2015，『宝塚・やおい，愛の読み替え』新曜社.
第3回：天田城介，2007，『＜老い衰えゆくこと＞の社会学』多賀出版.
第4回：ステファヌ モーゼス，2003，『歴史の天使』法政大学出版局.

成果：本研究会をとおして、社会学という共通のディシプリンにおいて研究活動を展開している点、各々のメンバーが異なる社会問題をテーマとしている点を活かし、以下の成果を得ることができた。

- **異分野横断的議論による、各人の研究における理論的枠組みの精緻化**
- **博士論文構成・学会報告に向けた準備・調整の場づくり**
- **多領域の文献情報共有を通じた研究ネットワークの深化**
- **査読論文執筆・学会報告の実施**